

水辺の音楽堂

八代研究室
01412085 諏訪 大和

1. はじめに

行田市では、日本遺産に登録されたこともあり、小規模なイベントが頻繁に行われている。私自身も軽音部の活動の一環で何度か参加している。イベントでの演目のひとつとして、楽器演奏やダンスの発表等が行われているが、発表の際は部屋の端を使用する場合や地面に板を置いてステージにする場合が多く、本来の用途とは異なる場所で行われているため、機材等の設置等も含め、満足なパフォーマンスのできる環境ではない。以上のことより、行田市内に小規模な様々な種類の催しにも対応した音楽を、行田市民の憩いの中心ともいえる水上公園に提案する。

2. 敷地概要

敷地は、行田市内の中心地に所在する水上公園の北側広場とする(図1)。水城公園は忍城周辺の外堀跡を整備した公園である。普段は、散歩や釣り等を楽しむ人が多く、足を運んでいる。春になると道沿いの桜が咲き花見の人々で賑わう。一方、広場内部は、殺風景であり、道沿いに比べ、極端に比べ少ない。広場周辺には池や水路等が点在しているが、柵はなく、小さい子供が遊ぶには危険に思えた。水上公園付近では、イベントが年に何度が行われている。

3. 配置計画

水城公園に隣接する「行田市コミュニティーセンターみずしろ」でイベントが行われることがあるが、室内で行われているため、外部にひらかれておらず、参加しにくい現状がある。また、駐車場が少なく、出演者やスタッフの分で満車になってしまうケースが多い。この問題を解決するため、野外にステージを設置し、近くに駐車場を設けることが必要であると考えた。

4. 設計趣旨

ステージの形状は、忍城の塀に空いている銃眼を元にデザインをした。銃眼には、長方形、三角形、円形の3つの形状(写真1)があったが、ステージ正面と客が向き合い、斜面を階段兼客席にする考えから長方形を選択した。ステージを地面より下のレベル(図3、4)に設置し、ステージ外への音の響きを抑え、車道から見た際にステージの演目内容が確認できないように視線が通らないようにした。ステージ奥に高さ2mのパネルを立て、準備中の演者の裏動線とし、客席からの目隠しとし、演劇やショーを行う際に袖として利用できるようにした。ステージ上に屋根をかけ、夜間でも照明を使用してイベントを行うことができる。イベント利用者はあらゆる年齢層を想定し、スロープを設定し車椅子でも通れるようにした。また、トイレが公園の敷地の端にしかないため、広場内にトイレを設置した。ステージ東側には駐車場を設け、機材の搬入の際の利便性も考慮した。駐車場の台数は、「行田市コミュニティーセンターみずしろ」の駐車場を参考に台数を40台分設け、より多くの人を訪れられるようにした(図6)。階段席の収容人数は100~150人分、ステージ前のスペースは椅子の設置数によって人数が増減し、立ち見席との兼ね合いもあるが150~200人分を想定した。階段兼客席付近に植栽を配し、影を設け、樹木の四季の変化もイベントの演出の一つとした。

5. おわりに

今回の設計は、道路からどのように見えるかに重点を置き、開放的な空間を目指した。このイベントステージを使用し、行田の町の活性化に繋がってくれれば嬉しい。

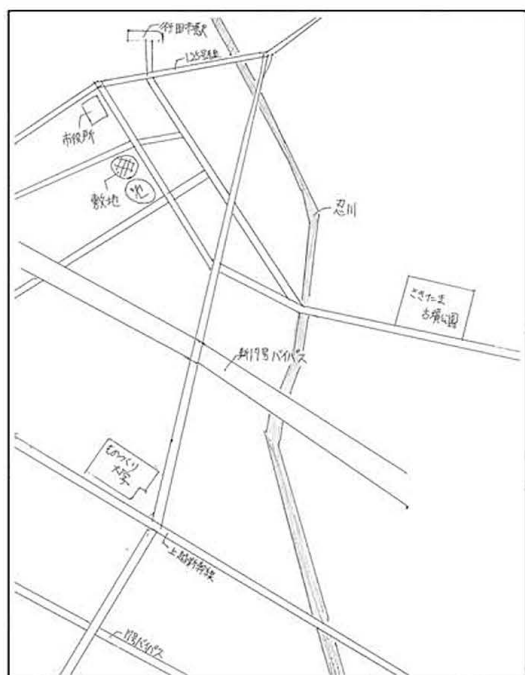


図1 敷地周辺図



写真1 銃眼

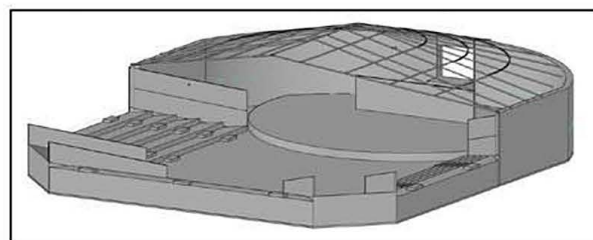


図5 3Dモデル

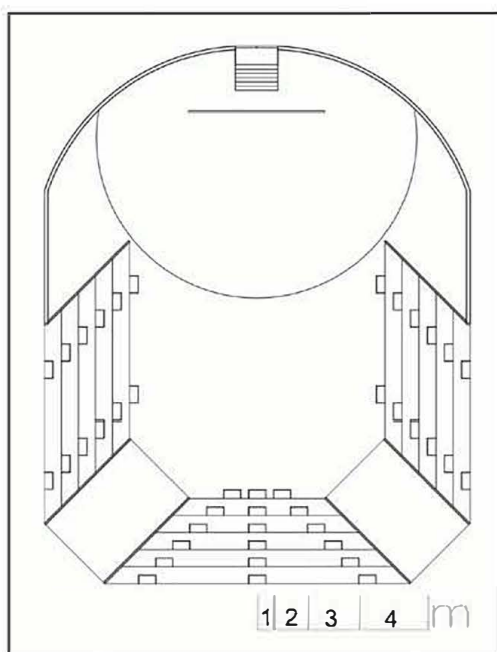


図2 平面図

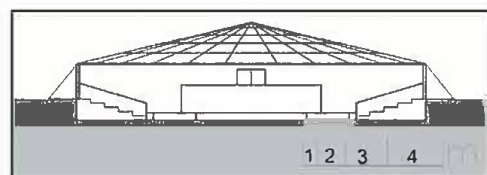


図3 A-A 断面図

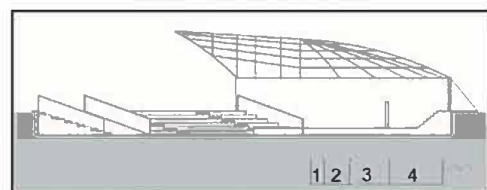


図4 B-B 断面図

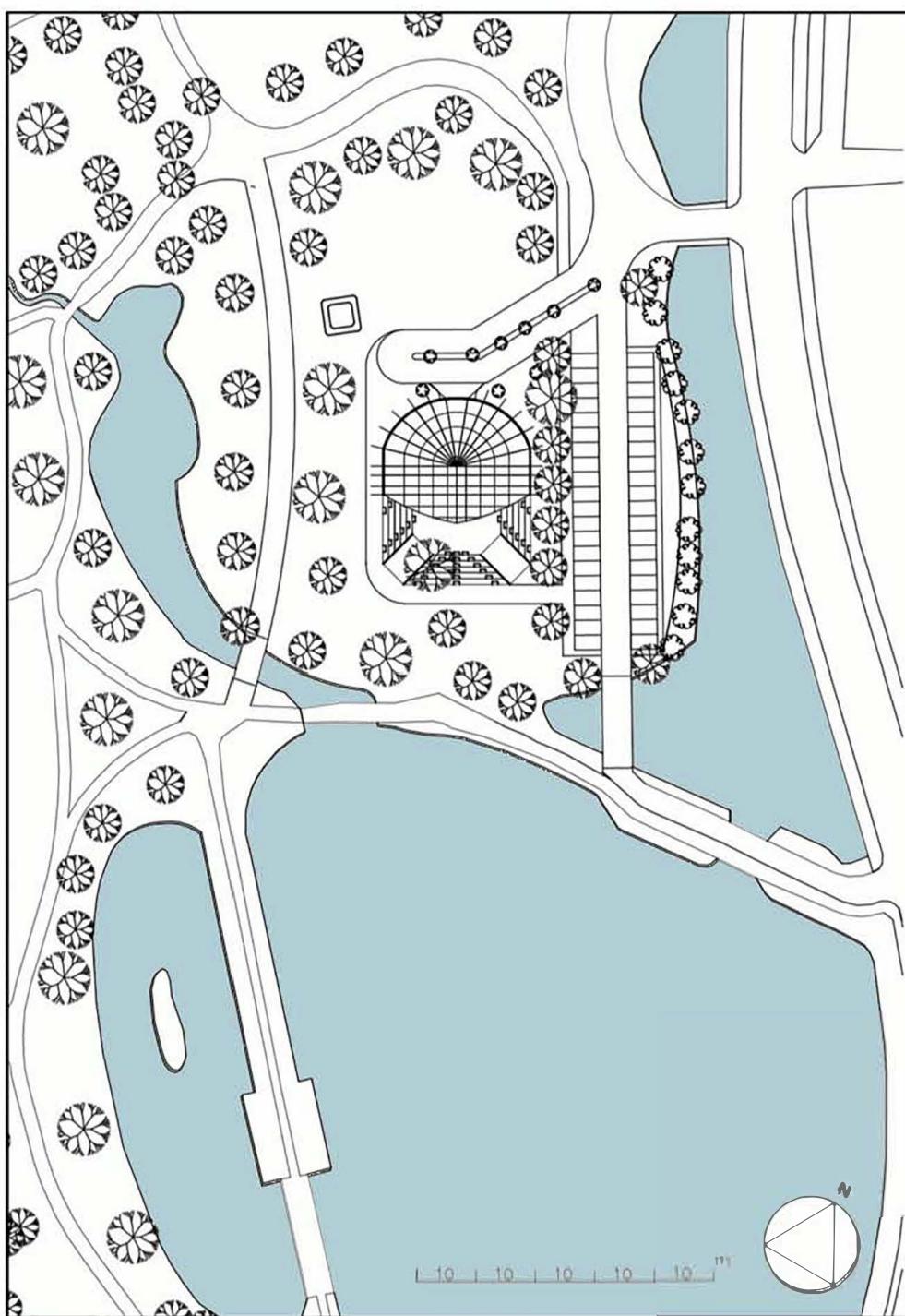


図6 配置図